

A-Z

英文法が語ること

1 名詞構文と無生物主語

2 文中に入り込む要素

3 Time-away 構文

英文を読み解く際には、品詞や文型、構文などの「形」を分析することも大切ですが、それ以上に、使われている語句が「文中でどのようなはたらきをしているか」を考えることが重要になります。ここでは、品詞や文型をおさえた上で、それが文中でどのようなはたらきをして、どのような意味を表すのか、英文の理解につながる形で学んでいきましょう。

1 名詞構文と無生物主語

動詞または形容詞が名詞化された要素を含んだ文を**名詞構文**と呼びます。この時、名詞化された語を動詞と同じようにみなして考えると、**名詞化された語の付近の語句だけで1つの文として考えることができます**。実際の例で確認してみましょう。

(1) A company in Taiwan embarked on **the development of a new type of dishwasher**. (台湾のある企業が新型の食洗機の開発に乗り出した)

(2) With the Great Depression and **the retirement of such stars as Babe Ruth**, the leagues wanted to generate interest in the game. (世界恐慌やベーブ・ルースのようなスター選手の引退により、メジャーリーグは競技への関心を生み出したいと考えていた)

(1) の the development of a new type of dishwasher は、develop a new type of dishwasher という他動詞を使った動詞句を名詞化したものです。このように、**他動詞を名詞化した場合、もとの動詞句の目的語は〈of 〉で表します**。一方、(2) の the retirement of such stars as Babe Ruth は、such stars as Babe Ruth retired という自動詞を使った文を名詞化したものです。このように、**自動詞を名詞化した場合、もとの文の主語は〈of 〉で表します**。それでは、次の文はどうでしょうか。

The excellence of the public transport system allows for smooth, efficient travel within and between cities. (公共交通機関が優れているため、都市内・都市間の移動がスムーズで効率的であることが可能になる)

この文の The excellence of the public transport system は、the public transport system is excellent という文が名詞化したものです。自動詞の時と同じように、もとの文の主語が〈of 〉で表されていますね。このように、もとの文の主語や目的語が of の後に来ることで、**SV や VO の関係を表すのが名詞構文の特徴の1つです**。

名詞構文のもう1つの特徴は、動詞や形容詞を名詞化したものなので、〈無生物〉になることです。したがって、名詞構文が主語の位置に来ると、**無生物主語**という扱いになります。次の例を見てみましょう。

Careful observation revealed that the guards were practicing deception about 15 percent of the time and often profiting by it. (注意深く観察すると、警備員は約15%の割合で不正を行い、それによってしばしば利益を得ていることがわかった)

この文の主語の careful observation は、carefully observe という〈副詞+動詞〉を名詞化したものです。直訳すると「注意深い観察が…を明らかにする」となりますが、主語の名詞句を〈副詞+動詞〉で解釈して、「注意深く観察することによって、…が明らかになる」ととらえると、意味がわかりやすいでしょう。このように、**無生物主語の文は、無生物主語と動詞の組み合わせにより〈原因・理由〉〈手段〉〈条件〉などの意味で解釈できます**。このような無生物主語の役割を意識すると、英文をより正確に理解できるでしょう。

2 文中に入り込む要素

次に、**文中に入り込む要素**のはたらきについて考えていきましょう。まず、次の2つの文を見てみましょう。

- (1) In a world where paper books are no longer needed and people have access, **in effect, through the internet**, to all the books in the world, why should they bother with libraries? (紙の本がもはや不要になり、インターネットを通じて事実上世界のすべての本にアクセスできる世の中で、なぜわざわざ図書館に行く必要があるのだろうか)
- (2) ‘If you get stung,’ **I said**, ‘then we’ll rub the bad place with a dock leaf and it will very soon be better.’ (「もし刺されたら」と私は言った。「その時はギンギシの葉で悪いところをこすってあげればすぐによくなるよ」)

(1) では in effect (実際には、事実上は) と through the internet (インターネットを通じて) という前置詞句が、(2) では I said (私は言った) が文の中に入り込んでいます。このように、**もとの文に別の要素が入り込んでいる時は、もとの文のつながりを見失わないことが大切です**。特に(1)のように、have access to (～を利用する) という熟語の間に他の語句が入り込んでいる場合は、熟語の結びつきを見落とさないよう注意が必要です。さらに次の例を見てみましょう。

- (3) I ask them to **explain to me what happened** in detail.
(私は、何が起こったのかを私にくわしく説明するように彼らに頼んでいます)

explain は〈**explain A to B**〉が基本形ですが、(3) では、目的語の what happened が to me の後に置かれて〈**explain to B A**〉という形になっています。to me が explain と目的語の間に入り込んでいるように見えますが、実際には、**目的語が重要な情報として**